明日へ向かって

第３学年　学年だより
令和５年　５月２２日
第１５号

メイクドラマはこれからだ

運動会を今週の土曜日に控え、練習が本格的になってきました。各クラス、本番に向けての練習が行われ、校庭での練習の熱気が校舎内にもひしひしと伝わっています。１９日（金）には全校での運動会練習が行われました。今年度初の下級生との合同練習でしたが、一つ一つの動きから最高学年としての立派な姿を見せることができていました。ラジオ体操の練習では、複数のグループに分かれて１年生に対して丁寧に教えていました。途中からはあいにくの雨模様で、体育館での練習となりましたが、大縄跳びの練習に一生懸命に取り組んでいました。各クラス息が合ってきて、跳べる回数も増えてきました。

これまでの学校生活で培われたクラスの団結力が、運動会ではさらに強まっていきます。

しかし、クラスの団結といっても、もちろんすんなりとはいかないもので、練習過程で衝突あり、分裂あり、さまざまな紆余曲折（うよきょくせつ）を経て、最後に*大団円を迎えるというドラマが生まれます。頑張ったクラスほどその振幅が大きい傾向にあるようです。かつて、運動会の予行練習でリレーのときにバトンパスをする人がいなくて、連続してもう１周走ってしまうというハプニングを起こし、「これで本番は大丈夫？」と見ていた人すべてを心配させたクラスが、本番で見事なリレーを披露したり、大縄跳びの回し手が本番だけ急遽替わらざるを得なかったけど、そこで自己ベストを更新することがあったり……。

クラスの数だけドラマがあります。主役が誰というのではなく、自分がそのドラマにどれくらい関与できたかが、大事なのです。取り組み過程における涙や苦労や苦しさは、時間というフィルターを通るとみんないい思い出に変わります。涙を避け、労を惜しみ、苦しさから顔を背けるなら、時間というフィルターを通しても残るものは何もありません。大人になったときにキラキラ輝く中学時代の思い出は、どんなに大金を積んでも買い取ることができないのです。どんな宝石よりも貴重なものです。ドラマを観る立場ではなく、演じ、作る立場に立つことです。台本のないドラマ、どのように展開し、そして、どんな結末が？　今、ドラマの幕が切って落とされようとしています。

＊大団円・・・小説・芝居・事件がめでたくおさまる最後の局面

さて、みなさんが作成した進路の年間計画（目標）を少しずつ紹介していますが、目標を立てるということは運動会に対しても同じです。なんとなく「がんばろう！」ではなく、「大縄跳びで連続５０回跳ぶ！」「全員リレーを７分〇〇秒で走り切る！」などと具体的数値を入れたほうがより成果を出せるものです。受験勉強、学校生活、行事などなど、すべてはひとつにつながっています。相乗効果といって何かがうまくいくとほかの何かもうまくいったりするものです。

６月からは合同説明会・授業公開が目白押し

運動会の練習にも熱が入っている３年生ですが、今年も例年通り早くから高等学校を中心に授業公開や学校説明会を開催するところがあり、九中にいらしていただいた高校の先生からいただいたものや送っていただいた資料を順次掲載しています。以前にも話したようにこのような授業公開による「学校訪問」や「学校説明会」には、自分で時間をつくって、積極的に参加をしてみてください。「百聞は一見に如かず」ということわざにもあるように実際に自分の目で確かめることは大切なことです。

そこで、注意することは・・・

① 訪問前の事前の連絡をして、日時や場所などの確認をすること
特に指定がなければ、中学校を経由しないでHPなどから直接連絡をする場合が多いです。高校によっては中学校でまとめて連絡をすることもあります。いずれにしてもわからない場合は先生に確認を。学年だより等に掲載されていない学校については、個人的に確認をしてみてください。

② 自分が見るということは相手にも見られているということ
高校に訪問する場合、原則として「標準服」で訪問してください。学校訪問をするということは、高校の先生にも自分たちが見られているということを忘れずに

③ １校だけでなく、複数の学校を見に行ってみよう
いろいろな高校を見て、比較することは大切なことです。最初からひとつにしぼってしまうのではなく興味があれば、タイプの違う学校を見てみることもおすすめします。

「みんなで跳んだ」

２年１組は、運動会の学年種目「大縄跳び」で１位をめざし練習していたが、勉強や運動面で支援を必要とする阿部ちゃんは、練習でいつもひっかかってしまう。そこで阿部ちゃんには応援係をしてもらうことに。ところが運動会前日、「阿部ちゃんをはずして跳ぶのは、やっぱりいやです」とクラスの一部から声があがった。放課後の教室で、長い話し合いが始まった。

―滝田よしひろ『みんなで跳んだ』（角川つばさ文庫）一部改変

あなたが２年１組のメンバーだったらどうするか、個人で考えをまとめ、班で意見を交換し、最終的にクラスで意見を一つにまとめて発表してもらいました。クラスごとに意見や話し合いの過程が異なっていて興味深いものがありました。意見発表後には実際に城北中の２年１組が選んだ道を見てもらいました。みなさんが感じたことを抜粋して紹介します。

- 勝ちだけにこだわるだけではなく、みんなで楽しむことを大切にしたいと思った。そして今のクラスは団体競技でまったく勝てないけれど、仲を深めて全員で優勝に向かいたいと思った。
- 正直みんなで跳ぶにしてもせいぜい３回くらいしか跳べないと思っていたが、まさかの抱きかかえて跳んだのにびっくりしたのに加え、１人で跳べていたのは本当に感動した。２年１組のみんなのやさしさが感動の結末につながったのだろうと思う。わたしも運動会で誰かがミスしてもむかでで転んでも大縄で引っかかってもめげずにみんなでやりたいと思う。
- 運動が苦手な人が嫌な思いをする運動会ではなくて、みんなが笑顔で終われる運動会にしたい。

- 映像を見てとても感動しました。跳べない子でもいろいろな工夫があれば跳べるし、勝つことよりもみんなで跳べたことのほうがうれしいとわたしも思います。阿部くんも嬉しかったんだろうなと思いました。みんなで協力して団結して創り上げるのが運動会なんだなと思いました。
- 感動した。これが本当の青春というものなのか。自分の人生を見直す必要があるかもしれない。
- クラスの人全員が勝ちにこだわらず一緒に跳んだのに感動した。わたしたちもクラスの人たちと協力し精一杯頑張りたい。
- この事例は本当に幸せな事例だと思った。学校で集団で何かするときは得意・不得意が分かりやすくなってしまうと思うし、何かトラブルがあったときに全員が納得することはしにくいと思う。この事例は本当に幸せだと思うし、とても感動したけど個人的にはあんまり納得できなかった。もしわたしが阿部ちゃんだったら、いやだなと思った。もし阿部ちゃんのクラスメートだったときは阿部ちゃんの味方をすることが大切だと思った。

- 運動会で勝つことだけを考えていると個人の想いをつぶしてしまうかもしれない。だからちゃんと意見を聞いて、みんなでできるような運動会にしたいと思った。
- 驚きと感動で言葉が出ませんでした。本番当日で跳べたこともちろんすごいけど「予行で一位だったから十分」「みんなで跳ぼう」と言ってくれたクラスに本当に感動しました。あきらめないことの大切さを改めて感じました。
- 我々の課題は「運動会で勝つ」というものがありました。しかし今回の道徳で、一人一人の課題、つまり一人一人の気持ちが大切なのが分かりました。運動会では、一人一人の気持ちを合わせて取り組みたいと思いました。
- とても温かく学びのある話だと思いました。やはり大切なのは人を知り、その人をリスペクトすることだと思いました。これからは自分もたくさんの意見を言ったり、聞いたりしてそのことを活かしていきたいと思います。
- 僕たちが話し合った結果は「応援係にする」だったけど、２年１組は本人の言葉を待つことを選択し、運動会でみんなの気持ちを一つにする楽しさが学べていた。誰一人いやな気持ちをしない最高の選択だったと思います。２年１組は心優しいクラスです。こんなクラスを目指して運動会を楽しみたい。
- 勝ち負けも大切ですが、それ以上に全員で一つのことを行うことが大事だと知りました。わたしも大縄で何回も引っかかってしまいますが、それでもめげずにやりたいです。
- 今回の授業で運動会の目的が分かった。運動会は勝つことが大切なのではなく、協力し合い、絆を深めることだと思った。わたしも運動会を控えているので勝つことに執着して大切なことを見失わないようにしたいと思う。
- 勝つことだけに執着せず、協力することでもみんな楽しい気持ちになれるんだと思った。むかで、大縄と協力するものが多いので、誰かを置いていくのではなく、このクラスのように和やかにみんなで本番楽しみたいです。運動会は勝つことがすべてではないので、結果より練習や競技中など過程がいい雰囲気でできるようにしたい。
- 運動会の練習となるとやはり勝つことにこだわってしまいがちだけど、クラスで１つになることの大切さを実感しました。前日の昼休みに勇気をだして先生に言いに行った２人の女の子もすごいなと思ったし、阿部ちゃんの意見を聞いて１つにまとまったクラスの姿がとても印象に残りました。運動会に向けて練習していく中で仲間を大切にして、みんなで団結することを心がけていきたいです。
- たしかに１人１人いろんな思いがあって勝ちたいと思う人やみんなで跳びたいと思う人もいると思うけど、どちらにせよクラスで一丸になることが大事だと感じた。運動会に向けてがんばっていきたい。